ホンモク　ホンキートンキーブルース

泉水雅広

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ホンモク　ホンキートンキーブルース

【Ｎコード】
Ｎ８７３８Ｆ

【作者名】
泉水雅広

【あらすじ】
１５歳の差がある男女、男は４０で女は２５歳。男は２０年前の学生時代に好きな女がいた。その過去の女が死んだというニュースを突然知る。男は２０年前に言えなかった言葉が今なお心の中で棘のように残る。横浜まで行くのに使った第三京浜、この短い高速に重なる現在と過去。交差する死んだ人間と生き残った人間の葛藤。未来は果たしてあるのか

第1話

「ねえ、第三京浜てあっという間に終わっちゃうね」

僕はぶっきらぼうに答えた。

「世田谷から横浜まで十五分で着いちまう高速だけどな特別な道なんだよ俺には。そうだ昔、杏里で第三京浜を歌った歌があったな知らないだろう？」

「杏里知ってるよ、ママがカラオケでたまに歌うよ。」

ママ、俺はいったいいくつだよと思った。よく考えれば茜よりも茜のママの方が歳が近いのだ。俺は４０で茜は今年２５だ、ママは確か５０。納得だ。俺たちは横浜で暮らしている。

横浜は昔から特別な場所だった。学生時代、世田谷に住んでいた。免許を取って初めての遠出は横浜で初めて乗った高速も第三だった。このわずか十五分足らずの短い高速にいろいろな思い出が山ほど詰まっている。

「茜、たまにはマリンタワーに昇ってみるか？」

「なんで本牧に住んでるのにマリンタワーなんて行かなくっちゃいけないのいよ。それよりもバーニーズに行こうよ。買いたい服があるんだよね。それにねタラちゃん知らないだろうけど、今マリンタワーは改装中で入れないのよ。」

「そうか、改装中か」

僕はすぐ近所に住んでいてそんな事も知らなかった。２０年前、横浜は特別な場所だったが今は日常になっている。時の流れは止まらない。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8738f/

ホンモク　ホンキートンキーブルース

2010年12月10日15時18分発行